

大阪YMCA創立125周年記念事業報告

大阪YMCAは125周年を契機に各地域YMCAでYMCAの公益性を明らかにする「ネットワーク型福祉社会—希望を持って共に生きる社会」の実現を目指した社会事業を行っています。



キリスト教理解

2007年11月22日(木)に高槻YMCAで『第2回キリスト教理解講座』が行われました。今回で2回目となるキリスト教理解講座には、

地域の方やYMCAリーダーたちが参加し、日吉台教会の牧師のお話を聞きながら絵本を通して、一緒にキリスト教を学びました。

『第2回キリスト教理解講座』には、地域の方やYMCAリーダーたちが参加し、日吉台教会の牧師のお話を聞きながら絵本を通して、一緒にキリスト教を学びました。小笠原牧師は、「私は昔、保育園の園長だったのです。子どもたちに絵本を通してキリスト教を伝えていたのです」とおっしゃっていました。

第2回キリスト教理解講座報告

絵本の内 第2回キリスト教理解講座報告
容は、主人公のガンビーさんが舟遊びをしていると、途中で子どもたち、うさぎ、ねこ、いぬ、ぶた、ひつじ、にわとり、子うし、やぎが次々と乗せてください」とやってきました。子どもたちには「けんかさえしなげりゃね」、うさぎには「飛んだり跳ねたりしなげりゃね」、ねこには「うさぎを追い回したりしなげりゃね」……とそれぞれ条件を伝えるのですが、その条件って実は彼らの本能そのもの。みんなが乗り込んでしばらくすると、にわとりが羽をバタバタさせた拍子に、みんなはいつもの自分たちに戻ってしまい大騒ぎになり舟は転覆。岸まで泳ぎ家まで歩いて帰りますが、心優しいガンビーさんは、家に着くと皆をお茶に招待し、帰りに「じゃ、さようなら、またいつか乗りにおいでよ」と言いました。やさしく何でも受け入れるガンビーさんはまるでキリストのようだと、小笠原牧師は言われていました。

また、「てんごの土ようび」という絵本も紹介されましたので、本屋さんで探してみてください。

高槻YMCA 松本圭臣



国際協力 スリランカYMCA同盟との協力を継続

大阪YMCAは1995年以来、スリランカYMCA同盟と協働で、内戦で親を亡くした子どもたちの心のケア、対立する民族の融和、Peace makerの養成を願い“Love&Affection Camp”を開催してきました。私たち大阪YMCAが125周年を迎えた今年度、時を同じくしてスリランカのゴールとコロomboのYMCAも125周年を迎えました。先日、総主事のChrisantha Hettiaratchi氏よりお祝いのメッセージが届き、これまでの互いの貢献をたたえ、今後も共に邁進することを確認しました。1月にはスリランカYMCA同盟のスタッフが来日し大阪YMCAで研修を受けます。情勢により活動の形態はその時々で変化しますが、今後も協力を継続してまいります。皆様お力添えくださいますよう、よろしく申し上げます!



コミュニティと共に

2007年11月3日、大人も子どもも共に学ぶ街の学校、「YMCAひろば」を、大阪YMCA会館で開校しました。これは大阪YMCAが創立125周年を迎え、これまでの地域活動を見直そうという構想から生まれ、「学び」をキーワードに地域との交流、活性化をめざすものです。

YMCAひろば

当初応募が少なかつたものの、とさばりカーニバルの来場者も続々と参加し、またたく間に講座はにぎわい、担当者も大忙しでした。午後から開催されたシンポジウム「西区の七不思議」では、郷土史家の竹田政廣さんの、「府庁が西区の江之子島に50年もあつた理由は？」など歴史的に興味深い話を、また西区の魅力を紹介するフリーペーパーで紹介する前波豊さんは「遊び心で街を愛するのが大切」と語りました。また、コーディネートを務めた奈良NPOセンターの仲川元庸さんには、このような「街の学校」の試みが他県で行われ成果を上げていく様子や、奈良での取り組みを紹介していただき、この催しを考える上で、大きな示唆をいただきました。

この催事の準備の立ち上がりは早かつたものの、YMCAの中での催しの位置づけやスタッフの認識を共有し合うことに時間をかけたため、終盤になってあわただしくなりましたが、ようやく実施までこぎつけました。さらに、この催しにご協力していただいた都市文化研究所の外浦孝さんら外部の人材の力は大きく、また新聞社の告知や折込みチラシを利用したことも今後の同じ催しの展開に期待が持てそうです。

YMCAひろば実行委員長 中村茂高

クリスマス献金のお願い

大阪YMCAでは皆様から頂いたクリスマス献金を、各地域YMCAを始め日本YMCA同盟と協力し、ボランティアと共に主体的に様々な支援プログラムを企画・実施・援助する活動を展開しています。地球上のすべての人々が、共に生きる社会の実現を願って、献金を用いています。

《支援プログラム報告》

2007年度 南YMCA エンジェル水泳報告



「はーい、それでは今から泳ぐお友達、集まりましょう。おはようございますー!」

毎回のクラスは、この掛け声から始まります。エンジェル水泳は、知的障がいの子どもたちが月2回集まり、参加者が目標を持って水泳に取り組むクラスです。『まずは、プールに入ること』、『目指せ25m!』など、目標は多岐に分かれます。水泳技術の習得も大事ですが、普段、水泳の機会が少ない子どもたちが「やってみよう。やればできる」の気持ちを持って欲しいと願っています。そして多くのボランティア指導者たちは、積極的な気持ちを引き出す関わりや指導法について考えています。そんな彼等・彼女等にも、子どもたちと共に成長していく機会がこのクラスには存在しているのではないかと感じています。参加者と、そのご家族、指導者などの多くの方々にとって必要であるプログラムだと再認識できます。大阪青年11月号の西村耕さんのお言葉にもありましたが、YMCAの発祥からの目的、公益は「広く世人を益すること」の一翼をエンジェル水泳プログラムが担っていることを今後も願ひ、クリスマス献金プロジェクトとして、多くの人々に支えていただいていることに感謝し、報告とさせていただきます。

南YMCAウエルネスセンター 瀧中慎介

《収益金はクリスマス献金に!》

第7回とさばりカーニバル報告

とさばりカーニバルが2007年11月3日(土)に、晴天の秋空、心地よい光の中、大阪YMCA会館にて行われました。来館者は約1200名(昨年度約1100名)を数え、また、創立125周年の記念事業として、大人も子どもも共に学ぶ『町の学校』II「YMCAひろば」も同時に開催され、今後の展開にも期待が持てるカーニバルとなりました。

ステージでは、地元西船場青年会の皆様による「獅子舞」の